

特集 街角ファッションと色彩観測

高齢者のファッションと色 定点観測について

門田真乍子 Masako Kadota (株) カラー集団トータルア Totalia

1. はじめに

超高齢化社会を迎え熟年層が生き生き社会に貢献することが21世紀の大きな課題である。外観から生命力が与えられることは「化粧療法」などで実証され、内面にまで及ぶことは、周知の通りである。ファッションの色彩は、個人の感覚に委ねられることが多く、固定観念にとらわれやすい。熟年層に受け入れやすく若者や他年齢層にも評価のよい服装がどのようなものかについて調査した。

本研究は、地域の違いによる熟年層ファッションの色彩を調査した。調査は、熟年層が多く集まる都内の対照的な任意の4地域を選定し、写真によるアンケート調査及び色彩評価を実施し、方向付けの資料を得た。

高齢者の色として巣鴨商店街・とげぬき地蔵前・銀座4丁目交差点・赤坂ホテルニューオータニ・赤坂見附駅前の4地域で調査した。巣鴨商店街は、同じ所に同じ商品があり、価格も手頃であり、休憩所があちこちにある、熟年層に対して親切に接客に当たる、など商店街の努力もあって、おばあちゃんの原宿といわれており熟年が多く集まる場所である。銀座は、ファッションの発祥の地といわれ、百貨店やエルメス、ルイ・ヴィトン、コーチ、シャネル、ブルガリなど高級専門店が共存する商業地であり、おしゃれな人が多く集まる場所である。また、集まる人の年齢層が幅広く、男性も、女性も、学生も、勤労者も経営者もまんべんなく集まるという理由で銀座4丁目交差点を選択した。また、赤坂は、ホテルニューオータニ、赤坂プリンスホテル、赤坂エクセルホテル東急など高級ホテルがたくさんあり、そのホテルを利用するおしゃれな人々が多いため赤坂ニューオータニを選定した。赤坂見附駅前は、オフィス街、飲食店街を利用する人も多いので定点観測の場としてこの4箇所を選んだ。4箇所で約400人に対して調査

した結果がほとんど同じ結果を得たので、おばあちゃんの町巣鴨商店街とファッションブルな大人の街、銀座の2地域を選定し、評価の高い服装とまたなぜ評価が高いのか調べてみた。

2. 調査方法

調査は、地域を2箇所選定し、ランダムに通行人100人を写真撮影（ニコンF70 リアラ100）するとともにアンケート調査を実施した。評価は、ベスト10とワースト10を選出し、色彩にて評価を行った。

2.1 地域別色彩調査

2.1.1 調査地域

調査地域は、表1に示す熟年層が集まる対照的な2地域で、各100人の写真撮影を実施した。撮影時期は、6月に実施した。巣鴨の特徴は、（おばあちゃんの原宿）で知られた地域であり、熟年層の宝庫である。また、銀座の特徴は、（大人の街）という認識が高く、熟年がおしゃれをして行く地域である。

2.1.2 ファッションのアンケート調査

ファッションのアンケートは、表2に示す5段階評価とした。アンケート調査は、表1に示す2箇所で撮影した写真をもとに、年齢20～70歳代、男性5人、女性25人の合計30人に対して実施した。

表1 調査地域

地域名	調査箇所
1) 巣鴨	とげぬき地蔵前、巣鴨商店街
2) 銀座	銀座4丁目三越前

2.1.3 色彩評価

各地域におけるアンケート調査結果をもとにファッションの色彩評価を行った。色票は、(株)日本カラーデザイン研究所Design Tone130、JIS標準色票日本規格協会を用いた。評価は、(1) 上着 (2) スカート・パンツ (3) 靴 (4) バックの4部位の対象について、各色相及びトーンについて目視調査を行った。

2.2 熟年層の意識調査

熟年層のファッション色についての意識調査をアンケートにて実施した。表3にアンケートシートを示す。アンケートは、都内在住の40歳以上の女性35人に対して実施した。

3. 調査結果

巣鴨、銀座ともベストは、同一または、類似の色相傾向を示し、ワーストは、広い範囲の色相傾向を示している。靴においてベストは、同一または類似色相、ワーストは、服の色に関わらず、自・黒を使用していることがわかった。この結果は、巣鴨、銀座とも同様の傾向を示しており、対照的な地域においても、他人が感じる評価の良い色彩は、同様の傾向を示すことが確認できた。

色度に関しては、色度の差が大きいほど評価が低く、少ないほど評価が高い傾向を示した。明度に関しては、明度差の大小による評価の度合は、少ない傾向をしめした。

以上より熟年層の意識調査結果、巣鴨、銀座のア

ンケート調査と同様にベストの人は、上下に同一または類似の色相を選び、ワーストの人は対照的な色相を選択する傾向にあることが確認できた。

以上により他人が快適と感じる色彩傾向は、色相に関係なく上下同色か同系でまとめ、ウォーム系、クール系を統一し、個人に似合う色を着ることであることがわかった。また、色数を少なくシンプルにまとめ、靴を同系にすることが各年代層に評価が高い傾向を示した。

地域別による総合点は、銀座・巣鴨の順に評価が高く、年代が上がるにつれて評価が低くなる傾向にある。体型においては、太った人ほど評価が低く、身長の高低による差は、みられない傾向を示した。

熟年ファッションにおける快適度は、色彩だけではなく体型をカバーし逆三角形にまとめたり全体のイメージを統一し流行を適度に取り入れ、背筋を伸ばして歩くなど、形、イメージその他の要因も大いに関係することが確認できた。

以後、首都近郊（東京、神奈川、千葉）における塾年男性、若い女性（代官山、自由が丘、銀座）、茶会における着物などの快適色の調査研究を行い、すべて、同様に上下同一、または、類似の色相がベストであり、ワーストは、別々の色相を選択するという傾向にあるということが他の調査でも確かめられた。この調査研究は人々にとっての快適色は、どんな配色の傾向を示すかということがわかり、今後とも、調査研究を続けていきたいと思っている。

表2 ファッションアンケートシート

熟年ファッションアンケートシート

年 齢										職 業									
20代					30代					40代					50代				
よい					わるい					よい					わるい				
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
ホ1					ホ35					ホ69					ホ70				
ホ2					ホ36					ホ71					ホ72				
ホ3					ホ37					ホ73					ホ74				
ホ4					ホ38					ホ75					ホ76				
ホ5					ホ39					ホ77					ホ78				
ホ6					ホ40														
ホ7					ホ41														
ホ8					ホ42														
ホ9					ホ43														
ホ10					ホ44														

表3 意識調査アンケートシート

熟年 35人に聞きました

着てみたい色は何色ですか？ (①上衣、②スカート・パンツ、③靴、④バック)

今、着てみたい色

上衣	スカート パンツ	靴	バック

秋になったら、着てみたい色

上衣	スカート パンツ	靴	バック

着ている色

上衣	スカート パンツ	靴	バック

性別 男 女

年齢 40代 50代 60代 70代 80代

別紙

カラーリストによる評価

